大分県立芸術文化短期大学附属図書館
図書館だより
No.18
2012.Apr.
The Oita Prefectural College of Arts and Culture Library Bulletin

図書館キャラクターの名前がきまりました！

▼発表は奥付にて！

表紙作品 『壁掛け時計』 飯田　紫陽子（1995年美術科卒業）

石膏型を使って成形した陶器の作品です。下半分にだけ釉薬を何度か掛け、赤みを帯びた土と晩重にも重なった釉薬が様々な表情を見せています。

Contents

❶ 新入生にすすめるこの一冊
❷ 視聴覚室へ行こう！
❸ 学生選書ツアー
❹ こんな本が新しく入りました
❺ 図書館利用に関するアンケート結果
❻ 読書スタンプラリーのご案内

新入生にすすめるこの一冊

『フェルメール　光の王国』

福岡　伸一 著　2011年（木楽舎）

美術科
久保木　眞人
先生

昨夏から京都・宮城・東京を巡回した「フェルメールからのラブレター」展は1月末に累計入場者数が60万人を突破しました。日本でもファンの多い17世紀オランダの画家・フェルメールの作品を、それらが所蔵されている美術館に赴いて鑑賞する、という旅と思索の記録が本書です。

著者は、数年前「生物と無生物の間」がベストセラーになった生物学者。自然科学者らしい観察と直感で、絵の中に疑問を発見し、謎を解いていこうとします。美術館学芸員や研究者と語り、独自の推理も見せる、その記述は読む人を飽きさせません。（美を愛でる遺伝子ハンター、と紹介された新聞記事はこちら→ http://doraku.asahi.com/hito/runner2/101116.html）

一般的な画集が作品のみを収めているのに対して、この本の中で街の佇まいなどと共に紹介されている作品の写真は、壁に掛けたまま額縁を含めた形で撮影されており、美術館紀行としても本書を楽しめるものにしています。著者のように世界中へ出かけていくことは難しいとしても、いつかはどこかで本物を目にしてみたい、と思わせる魅力に満ちた本です。

朽木ゆり子「フェルメール全点踏破の旅」（集英社新書）などと読み比べるのも面白いかもしれません。

（くぼき　まさと／生活造形（陶芸））

『反音楽史　さらばベートーヴェン』

石井　宏 著　2004年（新潮社）

音楽科
小川　伊作
先生

なんとも刺激的なタイトルだ。音楽研究者である私からすれば敵対関係にある本と言えるかもしれない。にもかかわらず今回あえて本書を取り上げた理由は、「音楽史といえばドイツ中心が当然」という我が国の風潮に本書がズバリとメスを入れているからだ。ドイツ以外に音楽家はいなかったのだろうか？　もちろんそんなはずはない。どこの国にも教会はあり、宮廷もあり、そこには必ずお抱えの音楽家がいたのである。実はこの本が書店に並んでいた時には「ドイツ人の作った虚構を暴く」と書かれた帯がついていた。周知のように歴史学も音楽学もドイツが発祥の地である。これらを「虚構」と決めつけてしまうのはいかがなものかとは思うが、確かにこれまでのオーソドックスな音楽史は創楽者であるドイツ偏重（特に18世紀から19世紀）の記述であったことは否めない。たとえば「ウィーン古典派」という概念はハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの3人の音楽家を指しているが、もちろん当時ウィーンに3人しか音楽家がいなかったわけでは無い（ちなみに最近の研究では「ウィーン古典派」という概念に疑義が提出されている）。

というわけで本書は裸の王様よろしく、西洋音楽史の定説をくつがえしていく。読み進むにつれ、「何かドイツ音楽に個人的な恨みでもあるのか」と思うくらい相当に主観的・感情的な記述にもでくわすことになる。しかし著者の経歴を見るとモーツァルトの著書、訳書が多い。まさか「可愛さあまって憎さ百倍」というわけでもあるまい。大げさにいえば「旧来のアカデミズムへの挑戦」といえなくもないが、出典を示す文献が一切書かれていないことから、『与太話』のたぐいと一刀両断することも可能だ。私自身この本のすべてに同意している訳ではないことも付記しておきたい。あえていうならば、本書は毒を含みつつ傾聴すべき示唆に富んだ1冊といえるだろう。

（おがわ　いさく／音楽学）

『山の郵便配達』

彭見　明 著　大木　康 訳　2001年（集英社出版）

国際文化学科
陳　　剛
先生

『山の郵便配達』という小説を読んだのは、つい最近のことだった。感慨無量であった。

父親と息子を中心に、母親を含めた三人の親子愛を描いた作品である。中国の山岳地帯の緑美しい大自然を背景に山を行き、川を渡る。歩き、さらに山を越える。愛犬だけをお供にしており、数日がかりで重い郵便袋を背に村から村へと、手紙を届けてきた老郵便配達。彼にも引退の時が来、初めて息子を連れ、最後の旅に出る。一美しい自然のなかで、仕事と人生と親と子の情愛の深さをしみじみ伝える感動の道行である。

山道を父と息子が黙々と進むのと同様に、淡々と進む話。会話の端々に親子の感情が絡み合う。父の仕事に対する真摯さに次第に息子が理解を深めていく様子は心が洗われる。父を負ぶり、息子が冷たい川を渡るシーンが象徴的である。

父親と息子の関係を焦点にした映画は古今東西多くあるが、その中で最も人間味のある作品こそがこの『山の郵便配達』だと思う。皆さん、あなたにとって、「お父さん」はどんな存在？ぜひこの小説を読んでください。
（この小説は、1983年中国優秀短編小説賞）

（ちん　ごう／中国学）

『「言語技術」が日本のサッカーを変える』

田嶋幸三 著　2007年（光文社新書）

情報コミュニケーション学科
洲　　雅明
先生

スポーツ競技におけるチーム作りには、常日頃から論理的に物事を思考しそれを伝達する言葉が大切です。これらはスポーツの場面だけでなく、これから社会へ出ていく学生のみなさんにも通じることです。

筆者の田嶋幸三氏はサッカー元日本代表選手で、引退後ドイツに2度留学し、サッカーにおける言語技術の必要性を痛感されました。その後、公認指導者ライセンス講習会やエリート選手養成機関JFAアカデミーに、「再話」「問答ゲーム」「絵の分析」「ディベート」「トレーディングゲーム」などの言語技術を向上させるプログラムを取り入れていきました。

日本での練習や試合で、「そのプレーの意図は？」と監督が問うと、多くの選手は監督の目を見て答えを探ろうとしますが、ドイツでは子供でもなぜそうしたのかを明確な言葉で理屈に返すそうです。体力、技術、精神力に加え、このようなロジカルコミュニケーションスキルが選手やチーム力を向上させ、苦しい場面でもピッチ上の選手たちで意図を確認しながらプレーを進めていくことにつながっていきます。

現代では言葉も変化してきており、学生のみなさんの中では「ビミョー」「うざい」「なんとなく」などのあいまい言葉が多く使われています。しかし、論理的に考え、しっかりした言葉で話す能力を学生時代に身に付け、社会に出ていく準備をして欲しいと思います。（すが　まさあき／体育）

図書館利用に関するアンケート結果

昨年、図書館の利用に関し全学生を対象としてアンケートを実施しましたが、その結果がまとまりましたので概要をお知らせします。

1．回答者の割合

回答者総数は593名で、在学者数904名に対して66%でした。

2．利用状況

図書館を週1回以上利用する人が全体で2割いる一方、ほとんど又は一度も利用したことがない人は約3割となっています（グラフ1）。学科別にみると、グラフ2でわかるように人文系に比べると芸術系（専攻科含む）の学生の利用率が高くなっています。

また館内2階にある視聴覚室を、利用したことがない又は視聴覚室のことを知らない人は全体の半数以上の約6割となっています。視聴覚室は機器を新しくし、19時まで時間を延長して新たに多数の映画のDVDも入れていますので、ぜひご利用ください。

3．「図書館だより」について

年2回発行しているこの「図書館だより」は4割の人には読んでもらっていますが、残り6割の人はほとんど読んだことがない、又は「図書館だより」のことを知らなかったと回答しています（グラフ3）。いままでの「図書館だより」も図書館のホームページに掲載されていますので、ご覧になってください。

4．意見、要望について

皆さんから多くのご意見・要望をいただきました。その一部について次のとおり改善等を行いました。

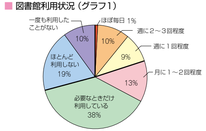
意見・要望	図書館からの回答（対応状況）
パソコンの椅子が不安定で座りにくい	1階のPC3台の椅子をすべて交換しました。
一人用の席を増やして欲しい	1階と2階の一部の机にパーテーションを設けましたのでご利用ください。
就活や資格に関する本が読みたい	1階に「就活・資格関連コーナー」を設けていますので立ち寄ってみてください。
館内にかばんを持込みたい	残念なことに毎年相当数の図書が行方不明になっているため、ご不便をおかけしますがロッカーを利用されるようお願いします。

5．最後に

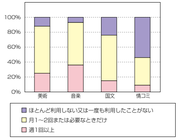
このアンケート結果をもとに、学生の皆さんがより利用しやすく、魅力ある図書館を目指してこれからもサービスの充実に努めていきますので、ぜひ図書館へ足を運んでください。

ご協力、ありがとうございました。

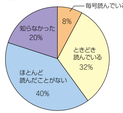
■ 図書館利用状況（グラフ1）



■ 学科別図書館利用状況（グラフ2）



■ 図書館だよりについて（グラフ3）



期間
昨年度に続き今年度も実施します

対象
本学の学生

参加方法

1. **図書館カウンターで参加のエントリーをしよう！**
   読書スタンプラリーカードに必要事項を記入し、カウンターに預けます
2. **本を借りてスタンプを集めよう！**
   本を返却する時に、カウンターで1冊につき1つのスタンプを押します
   （雑誌・マンガ・楽譜・CDはスタンプ対象外です）
3. **スタンプが10個貯まるとイラストレーションサークル特製のポストカードまたは点のしおりをプレゼントします！**

大分県立芸術文化短期大学附属図書館
図書館だより　№18

発　行　日　2012年4月1日発行
編集・発行　大分県立芸術文化短期大学附属図書館
住所：〒870-0833　大分市上野丘東1番11号
電話：（097）545-4235
Webサイト：http://www.oita-pjc.ac.jp/library/
図書館キャラクター デザイン：若杉郁子

図書館キャラクターの名前は・・・

アンケートで募った名前案から決めさせてもらいました。これから広報等で活躍しますのでよろしくお願いします！

視聴覚室へ行こう！

先生おすすめの１枚

メンデルスゾーン&チャイコフスキー「ヴァイオリン協奏曲」CD

請求記号 C/2472

音楽科
川瀬　麻由美 先生

ある番組で「パソコン」「エアコン」「リモコン」「ミスコン」など略された言葉の正式名称を問うクイズがありました。日本語はよく言葉を省略したり短縮したりする傾向が見受けられますが、クラシックの曲名にいたっても例外ではありません。のだめで有名になったBrahmsの交響曲第１番は「ブラ１」、Beethovenの交響曲第７番は「ベト７」などが例に挙げられます。また、協奏曲はイタリア語などではconcertoでドイツ語はKonzertであることからヴァイオリン協奏曲の場合「○○コン」という略称が普及しています。（○○には作曲者名が入ります）

そこで今回、ロマン派の３大ヴァイオリン協奏曲（Tchaikovsky, Mendelssohn, Beethoven）の中でも最もよく演奏される２曲「チャイコン」と「メンコン」が収録されているCDをご紹介いたしました。

チャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲ニ長調作品35は、チャイコフスキー（1840-93）自身が不幸な結婚の痛手から再起して間もない1878年に静養先のスイスで作曲されました。バリで聴いたサラサーテ独奏のLaloの「スペイン交響曲」に創作欲を刺激されて作曲したといわれるように、華麗な技巧と豊かな民族色が魅力的な協奏曲であり、ロマン派の代表的な名作のひとつとして広く親しまれています。

メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲ホ短調作品64は、子供のころから音楽の才能に恵まれたメンデルスゾーン（1809-47）が、自分が指揮者を務めていたゲヴァントハウス管弦楽団のコンサートマスターで友人でもあったダヴィッドに、演奏上の技法の助言を得ながら６年もの歳月をかけて完成に至りました。確か昨年のフィギアスケートのグランプリファイナルでこの曲が流れていたのを覚えています。

ヴァイオリン独奏のヤッシャ・ハイフェッツは、1901年生まれ。ヴァイオリニストの父親に手ほどきを受け、６歳で「メンコン」を２万人を超える聴衆の前で演奏し、11歳でベルリンフィルと「チャイコン」を協演した今でいうスーパーキッズでした。1917年にカーネギー・ホールでのデビューで大成功を収め、1972年のロサンジェルスでのラストリサイタルまで国際的に演奏活動をされました。1923年の関東大震災直後に来日し、チャリティーコンサートを開いて義援金を寄付されたという話をご存じの方もいらっしゃるかと思います。

1950年代に録音された名盤で、ヴァイオリンの巨匠による気品と情熱とを併せ持つ演奏を堪能してみてはいかがでしょうか。（かわむ　まゆみ／ヴァイオリン）

利用ガイド

視聴覚室ではオペラやクラシック、邦楽、洋楽、映画など多様なジャンルのCD・DVDを視聴することができます。CDは貸出もしています。

開室時間

月曜日～金曜日
12：30～19：00

時間は変更することがあります。
詳しくは図書館の掲示をご覧ください。

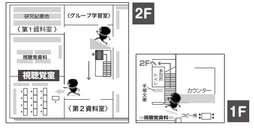
CDの貸出　２日以内　２組まで
（図書含めて５冊以内）

※ＤＶＤなどの映像資料は貸出不可

複数で鑑賞したい場合はグループ学習室をご利用ください
（学習室は図書館の開館中であればいつでも利用可）

アクセス

カウンター横の階段をのぼって２階奥にあります。
開室時間中は自由に出入りできます。



学生選書ツアー

昨年11月、図書館に置きたい本を書店で選ぶ「学生選書ツアー」を行いました。選んだ本のうち参加者が特におすすめしたい本についてコメントを寄せてもらいました。今回入ってきた合計93冊の本は、学生選書ツアーコーナーに並べていますので、ご覧になってください。

「学生選書ツアー」は、今年度も実施しますので多数の方の応募をお待ちしています。

学生選書ツアーに参加して

専攻科　音楽専攻２年　廣川　由莉

私は小学校のころまではまったく本を読まなかったのですが、中学校のときに出会った本がきっかけで、読書が好きになりました。その本を芸短の学生にもぜひ読んでほしい、私のように、ある本がきっかけで図書館を好きになる人が増えたら…と思ったのが志望した一番の理由です。また、音楽科の学生の授業の補助となるような本、マナーがわかりやすく書いてある本がもう少し図書館にあったらと思い、応募しました。

予算の２万円という金額は、大きなように思えましたが、選びたい人気ていた本がたくさんあったため、あの本もこの本も入れたいとなると、あっという間に予算の金額になってしまいました。また、音楽関係の本や実用書ばかりになってしまわないように、本のジャンルのバランスも考えながら選びました。本の内容の下調べと事前に書店にどんなものあるかで見をしてから行ったので、とても満足のいく選書ができました。私たちが選んだ本を手に取ったことがきっかけで、「人生の一冊」を見つけ出すヒントを得る人、図書館の常連さんになる人が一人でも増えればうれしいと思っています。

参加者が特にすすめる本のコメント

専攻科　音楽専攻　２年　廣川　由莉

『オペラギャラリー 50』

（学習研究社）

有名オペラ 50 タイトルをわかりやすく紹介した本です。グラフで見るストーリー展開、人物相関図、おすすめCD・DVD などコンパクトにまとめられていて、美しいイラスト付なので音楽科ではない方もぜひこれを機にオペラに興味を持ってもらえると思います。

『神様のボート』

江國　香織　著

（新潮社）

「あのひと」を信じて待ち続け、旅のように引っ越しを繰り返す母と娘の物語です。「私はあのひとのいない場所になじむわけにはいかない」"神様のボート"にのってしまったから" と言う母に対して、次第に成長していく娘の気持ちの変化が切ないです。

『お姫さま養成講座』

今田　美奈子　原作

（ディスカヴァー・トゥエンティワン）

お姫様の歴史、言葉づかい、イスの座り方、お城の造り、ドレスコード、晩餐会のルール…など、本物のマナーと知識をコミックで学べます。本当のお姫様ではなくても、女性としての品性を身に付けたい方にはぜひ読んでいただきたい一冊です。

専攻科　音楽専攻　１年　時田　有美

『ほんとうの復興』

池田清彦、養老孟司　著

（新潮社）

昨年３月に起きた東日本大震災。その現状は誰しもが目をそらさずに考えていかなければならないことです。この『ほんとうの復興』は、震災の捉える問題を様々な視点から鋭く議論し、生の声を交ぜて書いている本です。津波、原発、過去の震災、これからの未来、エネルギーの需要と供給、開発…とても考えさせられるので、是非読んでみてください。

『母に歌う子守唄』

落合　恵子　著

（朝日新聞社）

認知症の母と過ごした日々が描かれた介護日誌。『介護とはこういうものだ』という定義でも、単なる医療的な観察の記録でもありません。母と娘にある絆は、どんなことがあろうとゆるさまれた、辛いことも嬉しいことも楽しいことも与々を全部を受け止め、たくましく生きる姿に、心を強くうたえました。時にせつなく、時に笑みがこぼれる、温謙天て本当によかったと思えた一冊です。

『青空のむこう』

アレックス・シアラー　著

（求龍堂）

トラックにはねられて死者の国へ来てしまった少女ハリー。この国に来たは、手紙を終えるとく彼方の青い世界へ行ってしまいます。しかしハリーは行くことができません。死ぬ少し前、妹エギーのひどい言葉を ふっかけこと がんに実を続きったままだからです。エギーに自分の気持ちを伝えたい、果たしてハリーは気持ちを伝えることができるのでしょうか。本当に大切なものは何かを教えてくれる、切なくも心暖まるです。

情報コミュニケーション学科　１年　梶原　愛理

『アニンソセラピー』

（風涛社）

『それいけ！アンパンマン』や『忍たま乱太郎』など 90 年代前半のアニメソングの歌詞に焦点をあてて書かれています。聞いたことがあるという曲も歌詞を見てみるとまた新しい発見があると思います。歌詞の中のフレーズを通して何かを感じてもらいたいです。そして、少しでも元気になればと思います。

『くまのプーさん　小さなしあわせに気づく言葉』

PHP 研究所編

（PHP 研究所）

洪応明によって書かれた『菜根譚』をひもといた本です。こうやって書くと難しいと思うかもしれませんが、分かりやすく簡単な言葉で書かれているので読みやすいです。プーさんとその仲間たちの可愛いイラストとともに書かれた言葉からいろんなことを感じることが出来ると思います。

『境遇』

湊　かなえ　著

（双葉社）

『告白』でデビューした湊かなえさんの作品で、昨年 12 月にドラマで放送されたものの原作です。『告白』のようなドロドロした感じもなく結構読みやすい感じになっていると思います。絵本『あおぞらリボン』付きなのでただ小説だけを読むよりは楽しめると思います。

情報コミュニケーション学科　１年　川野　智暖

『東京ピーターパン』

小路　幸也　著

（角川書店）

この本は、読み始めたら何の話？？と不思議な感じがします。始めに登場するのがホームレスのおじさんなのです。美術がとても魅力的で深んだので私も何の話しか分かりませんでした。でも最後まで読むことても面白いので是非読んで下さい。

『私の遺品お願いします。』

吉田　太一　著

（幻冬舎）

この本を読んだ理由は、映画［アントキノイノチ］を見たことがきっかけでした。キーパーズという遺品整理屋のお話しです。自分が死んだあとの片付けの見積を お願いしたいという人が意外と多いことなど 普段知ることのできない仕事の事情。映画とは違う内容で、詳しく書いてあるので、興味がある人に是非読んでもらい改めて命の大切を知ってもらいたいです。

『シャーロック・ホームズ七つの挑戦』

エンリコ・ソリト　著

（国書刊行会）

この本はすごく面白く読み応えのあるものです！！！この本は曲名にあるように七つのストーリーがあります。長いですが読んでいると次が早く読みたくなります。私が好きなお話は、予定されていた犯罪者の事件です。ドキドキワクワクするので推理もわかすきな人にはとてもおすすめです。

情報コミュニケーション学科　１年　佐藤　由佳

『青い鳥』

重松　清　著

（新潮社）

村内先生は中学の臨時講師。言葉がつっかえて、上手く喋れない吃音だった。でも先生は授業より大切なことを教えてくれる。『先生にできることはそばにいることです。』いじめ、自殺、学級崩壊、児童虐待、すべての孤独な魂にそっと寄り添う感動作です。是非読んでもらいたい作品です。

『真友』

鏑木　蓮　著

（講談社）

14 歳の冬、父親を殺された。容疑者は親友の父親だった。憎悪と絶望を胸に、親友だった二人の人生は激変する。仇討を誓った少年は刑事に、世間を敵に回した少年は裏側の世界に。二人の人生は交差しないはずだった。さらなる事件が起きるまで――。鏑木蓮会心の感動ミステリーです。一気に読んでしまいます。

『スイッチを押すとき』

山田　悠介　著

（角川書店）

青少年抑制プロジェクトセンター。ここでは、自らの命を絶つ『赤いスイッチ』を持たせ実験をしていた。監視員として勤務する南洋平は、『７年もスイッチを押さない』という異例の子供、亮太、公明、了、貴沙美に出会う。彼らの願いを聞き、脱出を図るが、そこには非常な運命が待ち受けていた。人間の極限状態を描いている作品です。

情報コミュニケーション学科　１年　渡辺　楓

『ミッキーかしまし』

西　加奈子　著

（筑摩書房）

本屋で目についたこの本、帯に書かれた、『あはははははははは！』の文字、このインパクトは逃すべきはないからまずいただいた。この本は、電車のなか、喫茶店のなか、そういった公共の場では読むことをおすすめします。なぜなら、我慢できずに笑い声が漏れてしまうから。おもしろおかしい西さんの日常、そして軽にる 言葉のテンポ、そしてむは、語中に挿まるイラストや、日常や文字のコの雰囲気とも大好きになりました。

『空の上で本当にあった心温まる物語』

三枝　理枝子　著

（あさ出版）

本当に、"本当にあった" のかと思わせるような、心温まる物語ばかりです。CAさんのお客様への心遣いは、どんな仕事をやっている人にとっても参考になり、そしてアルバイトにも生かすことができます。読んだあと、心が温かくなり、そして時に涙してしまうような、本当に心温まる本でした。

『太陽は宇宙を飛び出した』

高橋　久美子　著

（フォイル）

元チャットモンチーの ドラム、高橋久美子さんの詩集。高橋久美子さんが学生の頃から書き溜めてきた詩と、白井ゆみ絵さんのイラストで構成されたこの本は、女の子たちの等身大の想いを代弁するような、胸がざわざわするような、宇宙へ飛び出してしまいそうな、様々な感情がぎゅっとつまった、そんな一冊。

こんな本が新しく入りました

平成23年10月から24年２月までの新着資料の中から掲載しています。ＤＶＤは館内で鑑賞できます。

選定学科名		書　名	編著者名	図書ラベル	配置場所
美術科		パッケージデザイン の勘ドコロ	日本パッケージデザイン協会企画	678.1/N71	第２閲覧室
		ノーマン・フォスター：建築とともに生きる	ディヤン・スジック	523.3/Su13	第２閲覧室
		シュルレアリズム美術を語るために	鈴木雅雄，林道郎	702/Su96	第１閲覧室
		練込・陶芸技法を極める：陶土から磁土まで秘技公開	室伏英治	751/Mu72	第１閲覧室
		「源氏物語」の色辞典	吉岡幸雄	757.3/Y92	第１閲覧室
		西洋近代絵画の見方・学び方	木村三郎	723/Ki39	第１閲覧室
		マーク・ジェイコブス&ルイ・ヴィトン～モード界の革命児	un documentaire realisé par Loïc Prigent	DVD/850	DVDコーナー
音楽科		Konzert für Violine und Orchester D-Dur, op. 35	Tschaikowsky	B73/Tch/ヴバ 1/22/2	第１閲覧室
		Studio primo per clarinetto	Donizetti	B4.3/Don/R	第１閲覧室
		Romeo und Julia : Op. 64	Prokofiev	B1.2/Pro/MHS	第１閲覧室
		Requiem = レクイエム	Verdi	B80/Ve/Kal 1/43-45/43	第１閲覧室
		起源から 16 世紀まで（西洋音楽の歴史　第１-３巻）	マリオ・カッロッツォ，クリスティーナ・チマガッリ	762.3/C22/1-3	第１閲覧室
		木下牧子混声合唱作品集	木下牧子	CD/7639	第２視聴覚室
		Opera collection：ヘンゼルとグレーテル（名作オペラシリーズ）	Humperdinck	DVD/663/58	第２視聴覚室
国際文化学科		ヴェルサイユ宮殿に暮らす：優雅で悲惨な宮廷生活	ウィリアム・リッチー・シュートン	235/N68	第３閲覧室
		ヒロシマ・ナガサキ：問（コレクション戦争と文学）	原民喜 ほか	918.6/Ko79/19	第３閲覧室
		ポルトガル語四週間	彌永史郎	869/I97	第３閲覧室
		沖縄・ハワイ：コンタクト・ゾーンとしての島嶼	石原昌英 ほか	361.5/I74	第２閲覧室
		エスニック・アメリカ［第３版］	明石紀雄	316.8/A32	第２閲覧室
		マザーグースイラストレーション事典	夏目康子，藤野紀男	931/N58	第３閲覧室
		落語研究会　桂吉朝全集	桂吉朝	DVD/870	DVDコーナー
情報コミュニケーション学科		京セラ稲盛和夫　心の経営システム	青山敦	335/A58	第２閲覧室
		よくわかる家族心理学	柏木惠子	367.3/Ka77	第２閲覧室
		ランニングリテラシー：走って読んで再発見！	ランニング学会	782/R16	第２閲覧室
		大学生の ICT 活用標準テキスト［第５版］	富山大学情報教育研究会	007.6/To79	第３閲覧室
		新米IT担当者のためのネットワーク構築＆管理がしっかりわかる本	程田和義	547.4/H81	第２閲覧室
		薔薇とサムライ	いのうえひでのり演出	DVD/831/1-3	DVDコーナー
		ビジュアル社会心理学入門	サン・エデュケーショナル	DVD/871	DVDコーナー
附属図書館		スティーブ・ジョブズⅠ・Ⅱ（世界のかたちを変え、未来を創ったといわれる男の伝記）	ウォルター・アイザックソン	289.3/J56/1-2	第３閲覧室
		悲しみのコンドラ（2011 年ノーベル文学賞）	トーマス・トランストロンメル	949.8/Tr1	第３閲覧室
		道化師の蝶（2012 年芥川賞）	円城塔	913.6/E62	第３閲覧室
		宮本常一　歳時習俗辞典（四季折々の日本文化と日本人を知る辞典）	宮本常一	386.1/Mi77	第２閲覧室
		小澤征爾さんと、音楽について話をする	小澤征爾，村上春樹	760.4/O97	第１閲覧室
		困ってるひと（今揺っているAIにエールを送る！智大学院生の闘病ノンフィクション）	大澤真幸	916/O67	第３閲覧室
		がん生と死の謎に挑む（世界中のがん研究の最前線を取材）	立花隆，NHKスペシャル取材班	494.5/Ta13	第２閲覧室